

オーストラリア海外研修旅行を終えて

奨学生 保幼2A 大貫真理子

オーストラリア研修の一週間は、幼児施設の訪問、高校生との対談、現地の先生による講義、そして観光をし、充実した内容でした。特に外国の幼児施設を訪問できた事は大変貴重な経験となりました。その中で印象に残ったプレゼンテーションの事、園内環境の事について書きたいと思います。

シドニー・メルボルンと計4箇所の施設を訪問し、各園で折り紙(Let's Go to a Zoo)・ダンス(いとまきまき)・手遊び(パンダうさぎコアラ)・紙芝居(一寸法師)の4チームに分かれて事前に準備した発表を行いました。私は紙芝居を担当し、12月から絵コンテや英文などを全てチームの皆で作りました。紙芝居という文化のない外国で子どもの興味を少しでも引くために、紙芝居の中でピアノや太鼓を使ったり、歌を歌ったり、様々な工夫をし、稽古を重ねていきました。努力した結果、子どもの反応は大変よく心から嬉しく思いました。静かな中で集中して紙芝居を聞き、一緒に手をたたいたり、喜んだりしてくれました。子ども達の顔や周りの状況を見て少しずつ変えていく事もしました。事前準備をしっかりと、その場の子ども達の状況に応じて対応していく事は重要だと改めて感じています。

園内については、日本と違う点が様々あり、大変興味深かったです。日本と比べて空間の使い方に違いがあり、広さは日本の一般的な幼稚園とさほど変わりはないのですが、至る所に子どもの写真や作品が飾られ、天井からも物をぶら下げたり、布で飾ったり、教室という雰囲気はまったくなく、その場に立っているだけでワクワクするようにできていました。また、窓に直接絵の具で絵が書いてあったりして、大胆な印象も受けました。

驚いた事の一つとして、訪問した施設はユダヤ人の子どもも多く、施設内は英語の表記の下にユダヤ語で書いてあり、先生も英語とユダヤ語の時間(授業)があると言っていました。他文化国家のオーストラリアならではの環境ですが、幼少の頃から様々な国の人々や言葉・文化が日常的にある事は、大変重要なのだと感じました。

そして、4箇所の幼児施設で共通して感じたことは、子どもは世界中どこでも一緒という事です。おままごとを好んだり、じゃれあったり、絵本を読んだり、手遊びをしたり、日本の子どもと同じような事で遊び喜ぶます。また笑顔でスキンシップをとると、子どもも自然と笑顔になる事も日本の子どもと一緒にです。たとえ言葉が通じなくても、心と心は通じ合えるのだと感じました。

今回の研修旅行を通して得た素晴らしい経験や思い・気付きなどを、これからの学生生活で学び・考え、しっかり自分の中に吸収し、よりよい保育者になれるよう努力します。

この研修を準備して下さった先生方はじめ係りの方々に深く感謝したいです。

本当にありがとうございました。



PINJARRA CHILD CARE CENTRE in Sydney



Mount Scopus College in Melbourne

The Campus News はホームページにも掲載されますのでご了承ください。



学園記念ホール
ステンドグラス



Information Form

Nichi-On

創立 102 周年

since 1903

The Campus News

5月号
2005. 第 108 号
編集発行 学園事務局

学校法人 三浦学園 日本音楽学校 学生向情報

< 5 ~ 7月の行事予定 >

| 1 年生 | 2 年生 |
|--------------------------|-------------------------|
| 5 / 3 (火) 憲法記念日(休校) | 5 / 3 (火) 憲法記念日(休校) |
| 4 (水) 国民の休日(休校) | 4 (水) 国民の休日(休校) |
| 5 (木) こどもの日(休校) | 5 (木) こどもの日(休校) |
| 13(金) 教養講座「保育の魅力!」 | 13(金) 教養講座「保育の魅力!」 |
| 6 / 3 (金) 実習前授業終了 | 20(金) 実習オリエンテーション |
| 6 (月) ~ 17(金) 体験実習期間(保幼) | 27(金) 実習前授業終了 |
| 20(月) 授業再開 | 30(月) ~ 6/25(土) 実習 |
| 7 / 8 (金) 教養講座 | 6 / 27(月) 授業再開 |
| 15(金) 教養講座 | 7 / 8 (金) 教養講座 |
| 17(日) ~ 8/31(水) 夏季休暇 | 15(金) 夏季休業前授業終了 |
| | 17(日) ~ 8/31(水) 夏季休暇 |
| | 19(火) ~ 8/1(月) 施設実習(保幼) |
| | 25(月) ~ 8/4(木) 児童館実習(保) |

行事予定は追加・変更になることがありますので学内掲示等に注意して下さい。

平成 17 年度 活動ゼミ

ゼミ希望の学生は顧問の教員まで。

| ゼミ名 | 活動日 | 活動場所 | 顧問教員 |
|-----------|---------|----------|-------|
| リミックゼミ | 未定 | 未定 | 陸路 和佳 |
| 障害児保育ゼミ | 未定 | 未定 | 亀井 哲宏 |
| 絵本の世界を探る | 第 1・3 水 | 6 - 4 教室 | 並木真理子 |
| 公務員試験対策ゼミ | 第 1・3 月 | 5 - 3 教室 | 富岡麻由子 |

平成 17 年度 活動サークル

変更になる場合がありますので希望の学生は部長まで。

| サークル名 | 活動日 | 活動場所 | 部長 | 顧問教員 |
|------------|-----|---------------|-------------|--------------|
| コーラスサークル | 金 | ML2・3 階 保育実習室 | 川口 陽平(保幼2A) | 三小田美穂子 山本 直樹 |
| シターサークル | 火・木 | 9号館地下 | 清水 奨(保幼2B) | 諸井 泰子 |
| 造形サークル | 水 | 造形室 | 片倉 康弘(保幼2A) | 桜井 剛 |
| 素話サークル | 木 | 5 - 3 教室 | 森 千春(保幼2C) | 三澤裕見子 |
| サークルK | 水 | 8 - 1 教室 | 酒井 和幸(保幼2B) | 並木真理子 |
| ダブルタッチサークル | 水 | 中ホール | 黒田 智(保2) | 穂田みづほ 豊田 泰代 |
| 軽音サークル | 水 | 小ホール | 鈴木陸人(保2) | 三小田美穂子 |

日本音楽学校および東京聖星社会福祉専門学校の新入生の皆さん、入学おめでとう。また保護者並びにご家族の皆さん、知人友人の皆さんにもお祝いの言葉を申し上げます。

本日は元衆議院議員で東京農業大学教授・栗本慎一郎先生をはじめとして多数の来賓をお迎えし、入学式を挙行することができました。大変、嬉しく、栄誉なことです。心からお礼申し上げます。

さて、皆さんの中には半年振りにお会いする人も、先月にお会いした人もいらっしゃるわけです。再会できたことを心からうれしく思っています。

ところでかなり大勢の受験生に、4月に再会するまでにやっておくようにと宿題を出しました。絵本を5冊読み、できたら暗記すること。童謡を5曲覚え、子どもに歌って聞かせてみよう。紙芝居を3作品、完全に上演できるようにしよう。幼稚園または保育園をお願いしてボランティア活動をやらせてもらおう。あなたはソナチネまで挑戦してください。等等です。覚えていますか。

では、これから、式辞として2つのことをお話しします。お話ししたいことを1つに絞ろうと何度も書き直したのですが、どうしても絞りきれず2つになってしまいました。だから2つのことを話します。

今年から、「補習授業」を行います。高校時代に補習授業を経験した方もいるでしょう。ともすれば補習は遅れを取り戻すための授業になりがちです。日本音楽学校の補習は違います。

本校が開設している授業科目、すなわち専門領域の基礎を、今まで学んだことがない人のために特別の授業として開講するのです。そのために教師は半年かけて、シラバスを書き上げ、教材を集め、評価の仕方を工夫しました。いろいろな方に時間外の特別講師を依頼しました。科目は「初歩保育」、「国語・文章作成法」、「ピアノ」の3科目です。授業終了後の4時10分から5時10分までの1時間を使って行ないます。

学生のためになると信じられることは、教育として挑戦してみる。これが日本音楽学校の教育科学です。

補習「初歩保育」はみなさんの頭や心にある、子ども理解という密閉された部屋の扉や窓を開け、新しい空気とできれば個性的な香りをもった空気を送りこむための授業です。「国語・文章作成法」は皆さんのことば表現や文字表現のための道具を点検し、油をさし、壊れた道具を修理し、不足する道具を補充するための授業です。そして「ピアノ」は校名に恥じない保育者の道へ向かうための荒修行の授業であってほしいと願っています。

今教育で大切なことは学生が社会人となって活躍するために「何が必要か、どういう学力や技能が必要か」を考え、それを教育サービスとして付与することです。言い換えれば、若者の学習意欲を刺激する教育、しかも保育現場からよく工夫した教育だと評価してもらえらる教育課程を作り出すことです。

補習もその1つに過ぎません。

2番目は「詩のような文章」の話をします。略して詩と呼ぶことにします。

皇太子殿下がドロシー・ロー・ノルトという教育者が書いた「子ども」という詩をテレビの番組で紹介しました。短いかから読んでみましょう。

ドロシー・ロー・ノルト作(石井千春訳)

「子ども」

批判ばかりされた子どもは
非難することをおぼえる
殴られて大きくなった子どもは
力にたよることをおぼえる
笑いものにされた子どもは
ものを言わずにいることをおぼえる
皮肉にさらされた子どもは
鈍い良心のもちぬしとなる

しかし、激励を受けた子どもは
自信をおぼえる
寛容にであった子どもは
忍耐をおぼえる
賞賛を受けた子どもは
評価することをおぼえる
フェアプレーを経験した子どもは
公正をおぼえる
友情を知る子どもは 親切をおぼえる
安心を経験した子どもは 信頼をおぼえる
可愛がられ抱きしめられた子どもは
世界中の愛情を感じとることをおぼえる

<PHP 研究所 発行>



ドロシー・ロー・ノルトはアメリカ・南カルフォルニア在住の家庭教育学者です。ノルトは、レイチェル・ハリスという心理セラピストと二人で家庭教育や子育てのことを分かりやすくまとめた本を作ったのです。50年も昔、1953年のことです。それが Children Learn What They Live という本でした。

ベビー・フォーミュラを作っているロス・ラボラトリーという会社がポスターを作製し、キャッチコピーとしてこの詩を使用しました。そのポスターを店頭、産婦人科の病院や医師・ナースたちに配布したことからドロシー・ロー・ノルトの詩は有名になり、世界で10ヶ国語に翻訳されたといわれています。多分、その結果、スウェーデンの教科書会社の目に留まり、中学校の教科書に採択されるようになったのでしょう。

私はこの詩のことを話したかったわけではありません。

本当に好きな詩や絵本がある人は幸せだということ、また暗記するまでに詩や絵本や紙芝居を反復して読み込み、覚えてしまうことの威力・すごさについてお話したかったのです。

この番組での皇太子殿下の朗読が実によかった。早速「子ども」という本、原題 Children Learn What They Live を取り寄せて読んでみたら、この詩はそれほどすばらしい詩ではないのです。内容は前提の条件を並列的に並べ、その結果を巧みに配列した詩の形式に近い文章です。「こうすると、こういう子どもになるぞ」という教条的な文章で、子育てのマニュアルに過ぎないと厳しく批判する人もいます。

それが皇太子殿下がお読みになったとき、珠玉の名詩に聞こえてきたのだから驚いてしまいます。僕にはあのような朗読はできません。ましてや俳優やタレントではああいう暖かさをこめた朗読はできません。実によかった。

なぜよかったのか。こう疑問を呈するのが学習の原点になります。私たちは身の回りに多様な子育てを見聞しています。そこでこの詩を朗読するときどうしても感情過多になりがちです。

皇太子殿下は細かいフレーズにこだわらないで、「子どもを育てる」ときの大切な心構えとして捉え、文章のテーマに共感して読んでおられました。しかも楽しんで読んでおりました。

一番凄かったのは、読み違えることも、つ

かえることもなかったことです。

皇太子殿下はこの詩を、ほとんど、いや間違いなく完全に暗記していたと思います。だから朗読が安定し、間が意味を深め、朗読者の「想い」が伝わってきたのです。

皆さんの入試でも同じでしょう。絵本の朗読、紙芝居の上演、スピーチにしてもほとんど暗記して挑戦してくれた学生が何人かいました。そういう人のプレゼンテーションは私たちの心を揺さぶりました。ピアノの演奏でも似たような現象が起こります。

3月にオーストラリアへ研修に行った学生には、スピーチや挨拶、紙芝居の文章は暗記してもらいました。もちろん英語の文章です。原則、メモを見ない約束をしたのです。みんなが努力をしました。時にはメモ用紙をチラと見た学生もいましたが、メモを見まいと必死でした。

結果は、下手な英語が95%通じたのです。たった2分のスピーチを1週間かけて仕上げました。15分の紙芝居を半月かけて暗記しました。コーディネータの Charles Slucki は日本音楽学校の学生を助手席に乗せ、運転しながらアクセントやアーティキュレーションを直してくれました。すべてのスピーチが終わったとき、幼稚園や保育園の先生がセンテンスの意味だけでなく、一つ一つの単語が理解できたよと学生をほめていました。

何かを暗記して、そして語るってすごい力を発揮するのだと、改めて認識しました。

「補習」授業と「暗記」のすごさについてお話ししました。

暗記したくなるような、いい詩、いい歌、いい絵本に出会えたら幸せです。

そして何よりも、いい教員、いい授業に出会えたら幸せです。

最初から読み違えたり、つかえたりしないで読むことは出来ません。何度も、繰り返し読むことで、文章の癖が分かり、文章の構造が頭に入るようになります。

同じようにいい教員、いい授業との関係は1回の触れ合いでは出来上がらないでしょう。教員の発言や授業のレジュメを何度も読み、その特徴や構造を理解する必要があります。その結果、初めて好ましい関係、すなわちサブテキストを読める関係に到達できるのではないのでしょうか。